

2020年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2019年11月7日

2020年3月期 第2四半期 サマリー

概況

市場の先行き不透明感は続くものの、当社を取り巻く需要環境は底堅く、為替の影響を除き、ほぼ期初予想どおり進捗

1. グローバル経済が弱含む中、当社の事業環境は堅調
 - ・ 主要市場では業種分散の効いたポートフォリオが業種を牽引
 - ・ 中国は好調業種の需要を捉えると共に、安全意識の高まりでシェアを拡大
2. 前年Q1に計上された韓国の大型案件（売上規模7億円）、及び当期計上の、一過性費用、為替差損、法人税負担増の影響により、前年同期比で、減収減益

業績

(単位：百万円)	2020/3 期 Q2	前年同期比	期初予想比	期初予想
売上高	27,548	△2.3%	△1.6%	28,000
営業利益	2,177	△15.1%	△1.0%	2,200
当期純利益※	1,083	△41.0%	△16.7%	1,300

※親会社株主に帰属する四半期純利益 / 為替平均レート 1ドル = 108.6円

1

2020年3月期 第2四半期 決算報告

2

2020年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2015年3月期-2019年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業構造について

2020年3月期 第2四半期 決算ハイライト

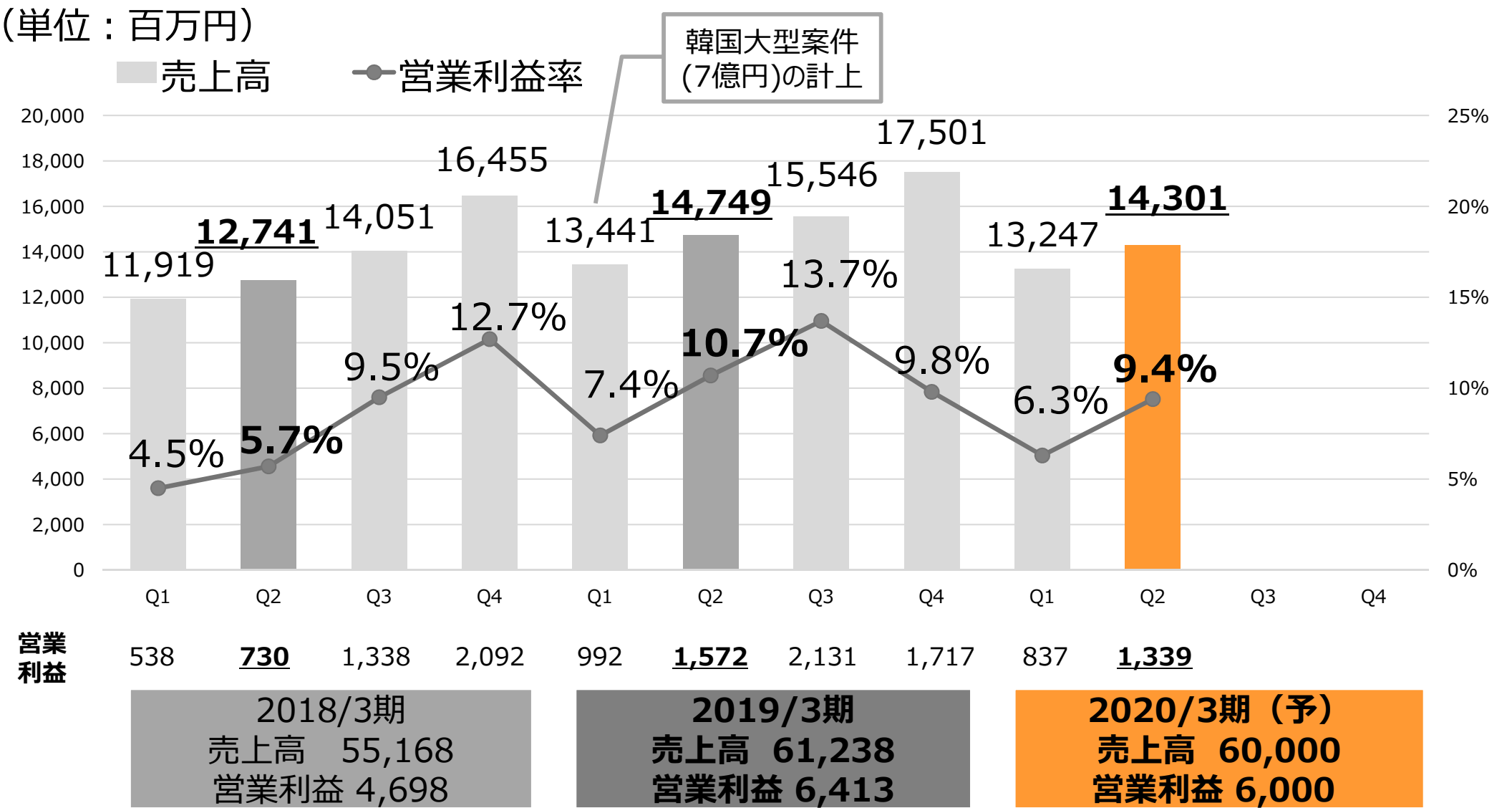
(単位：百万円)	2019/3期	2020/3期	前年同期比
	Q2 累計 (4~9月)	Q2 累計 (4~9月)	
売上高	28,190	27,548	△2.3%
売上総利益 (売上総利益率)	10,243 (36.3%)	10,341 (37.5%)	+1.0%
営業利益 (営業利益率)	2,564 (9.1%)	2,177 (7.9%)	△15.1%
営業外収益	181	84	
営業外費用	430	466	
経常利益 (経常利益率)	2,314 (8.2%)	1,795 (6.5%)	△22.4%
特別損益	-	△32	
法人税等	407	637	
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (当期純利益率)	1,835 (6.5%)	1,083 (3.9%)	△41.0%
EBITDA =営業利益+償却費	3,903	3,675	

注 為替レート (2019/3期Q2→2020/3期Q2) :

USD 110.3円→108.6円 CAD 84.9円→81.7円 EUR 129.8円→121.4円 RMB 17.1円→16.2円

売上高および営業利益率

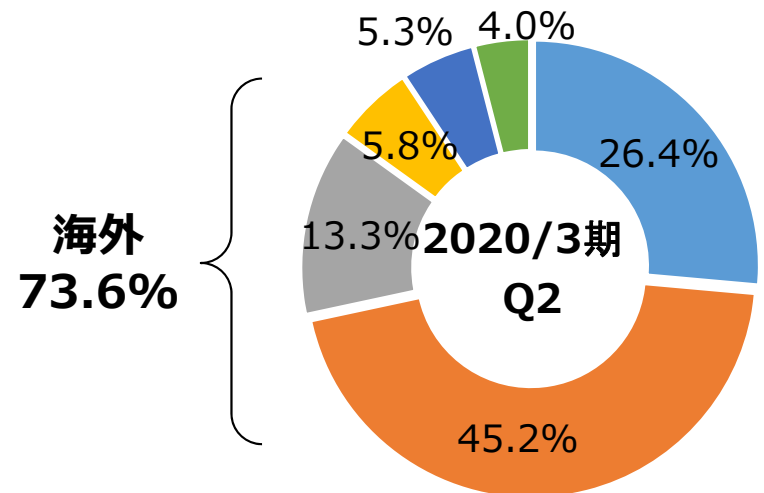
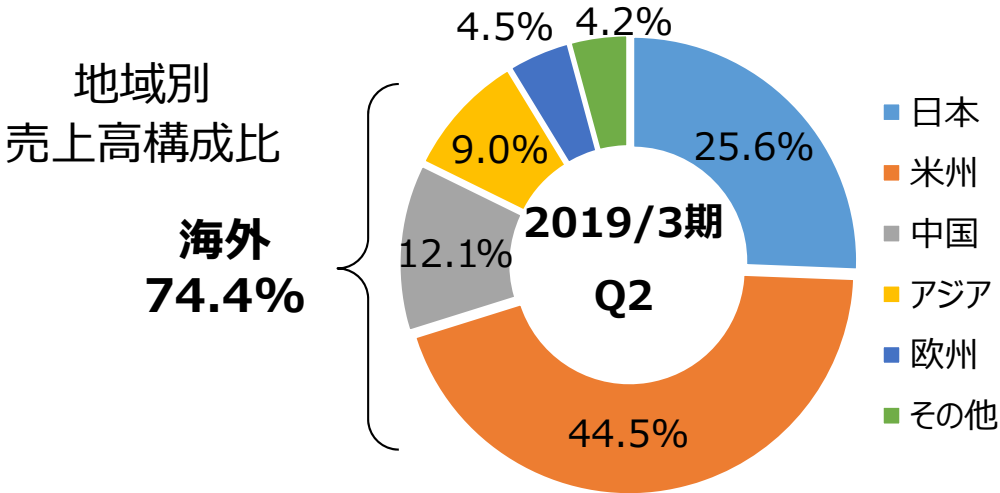
各市場において、インフラ・民間設備投資とも依然、底堅く推移



地域別の状況

(単位：百万円)	2018/3期 Q2		2019/3期 Q2		2020/3期 Q2		前年同期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	24,661	100.0%	28,190	100.0%	27,548	100.0%	△641	△2.3%
日本	5,925	24.0%	7,225	25.6%	7,277	26.4%	52	0.7%
米州	11,781	47.8%	12,549	44.5%	12,437	45.2%	△111	△0.9%
中国	2,857	11.6%	3,417	12.1%	3,660	13.3%	242	7.1%
アジア	1,963	8.0%	2,533	9.0%	1,603	5.8%	△930	△36.7%
欧州	968	3.9%	1,270	4.5%	1,437	5.3%	203	16.0%
その他地域	1,165	4.7%	1,194	4.2%	1,094	4.0%	△99	△8.3%

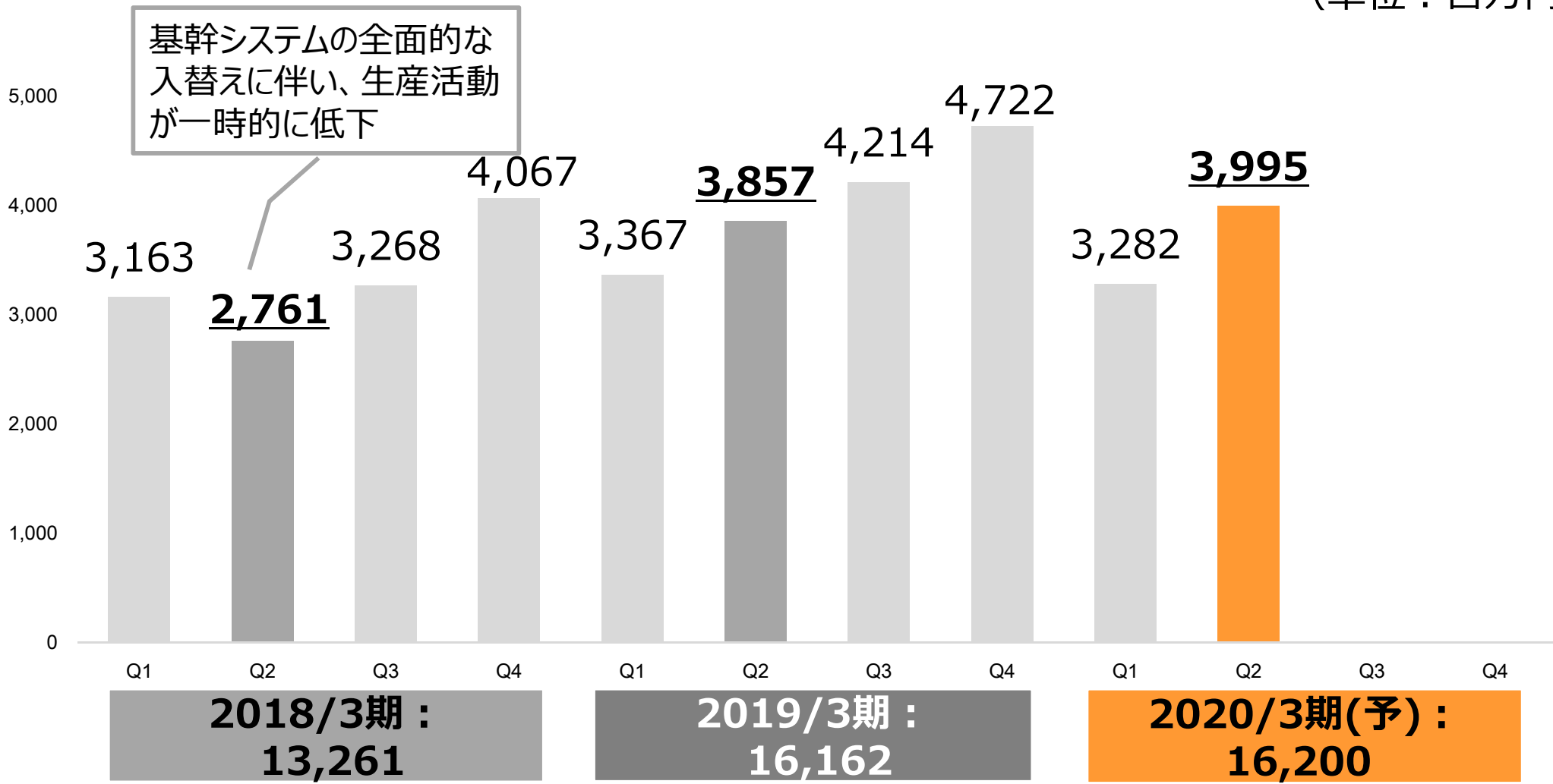
注 為替レート (2019/3期Q2→2020/3期Q2) :
 USD 110.3円→108.6円 CAD 84.9円→81.7円 EUR 129.8円→121.4円 RMB 17.1円→16.2円



地域別売上高（日本）

- 機械受注全般に減速感が漂うも、当社を取り巻く需要は依然、堅調に推移
- インフラ関連向けレンタル機器の稼働率は引続き高水準で推移

(単位：百万円)



地域別売上高（米州）

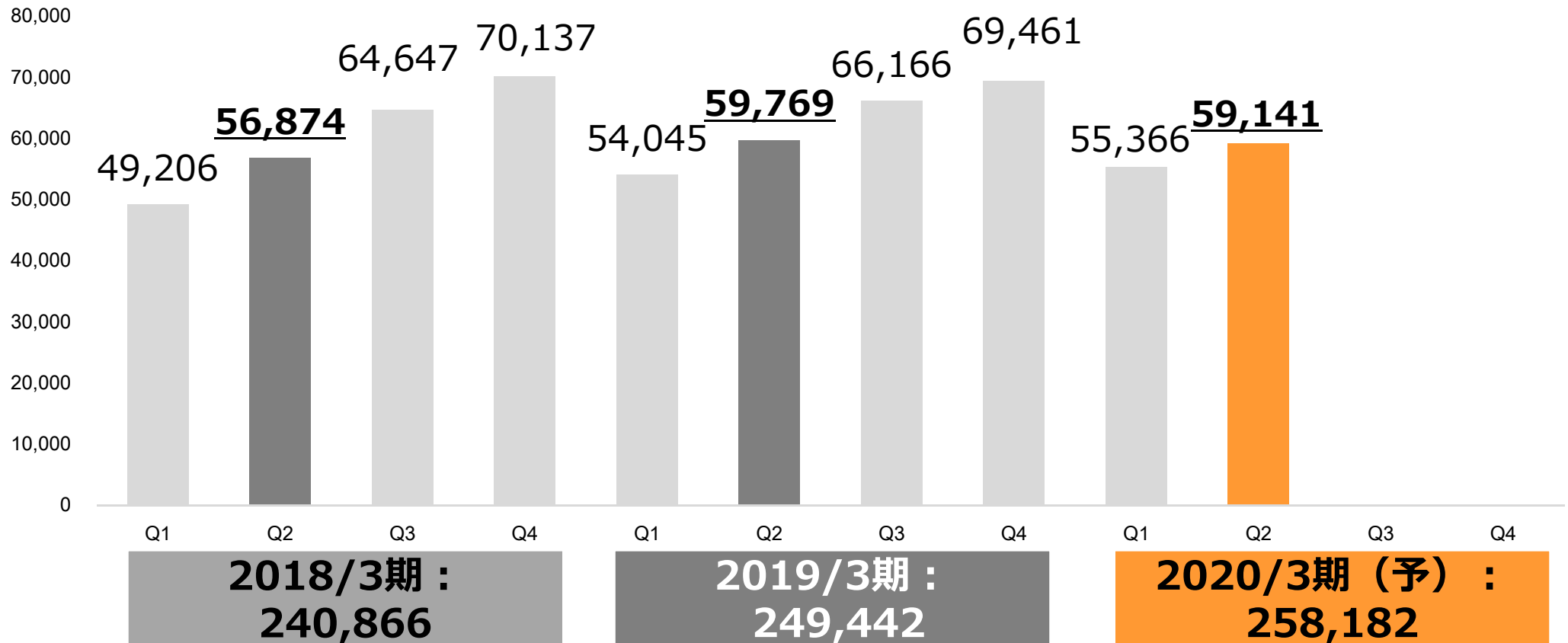
※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USDドル換算）を加算した金額の推移

◇米州事業の特徴

日本と同様にホイストを中心としたマテハン事業に加えて、ピアレス社のクサリ関連事業で構成

● 対中貿易摩擦、政権運営により不透明感が拡大するも、受注は堅調

（単位：千USD）



地域別売上高（中国）

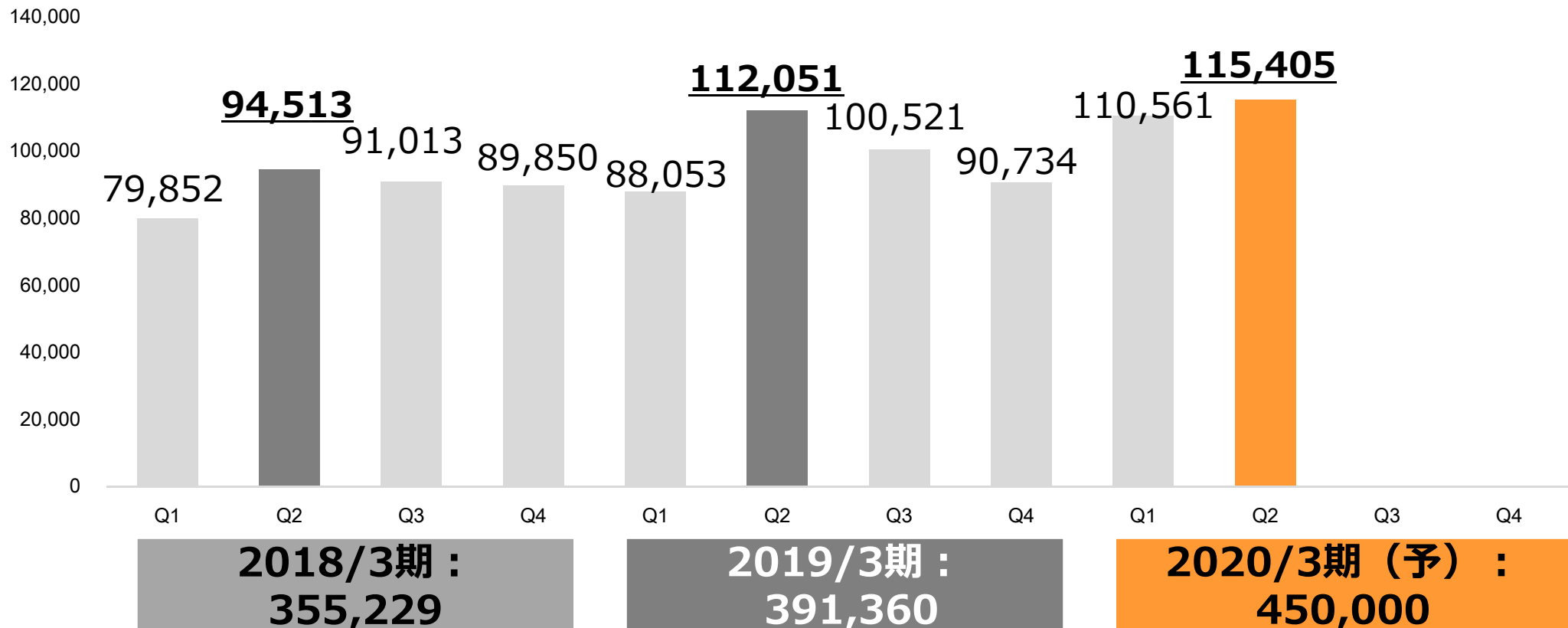
※中国は1-12月決算

◇中国事業の特徴：

中国市場向けロープホイストの製造販売と、日本からの高機能製品の輸入販売が事業の2本柱

- 景気全体が弱含む中、商用車関連、電力・鉄道等、内需好調産業が業績を牽引
- 安全意識の高まりによりシェアは拡大傾向、増収トレンドを継続
- 収益性を重視した事業運営により着実な利益を計上

(単位：千RMB)



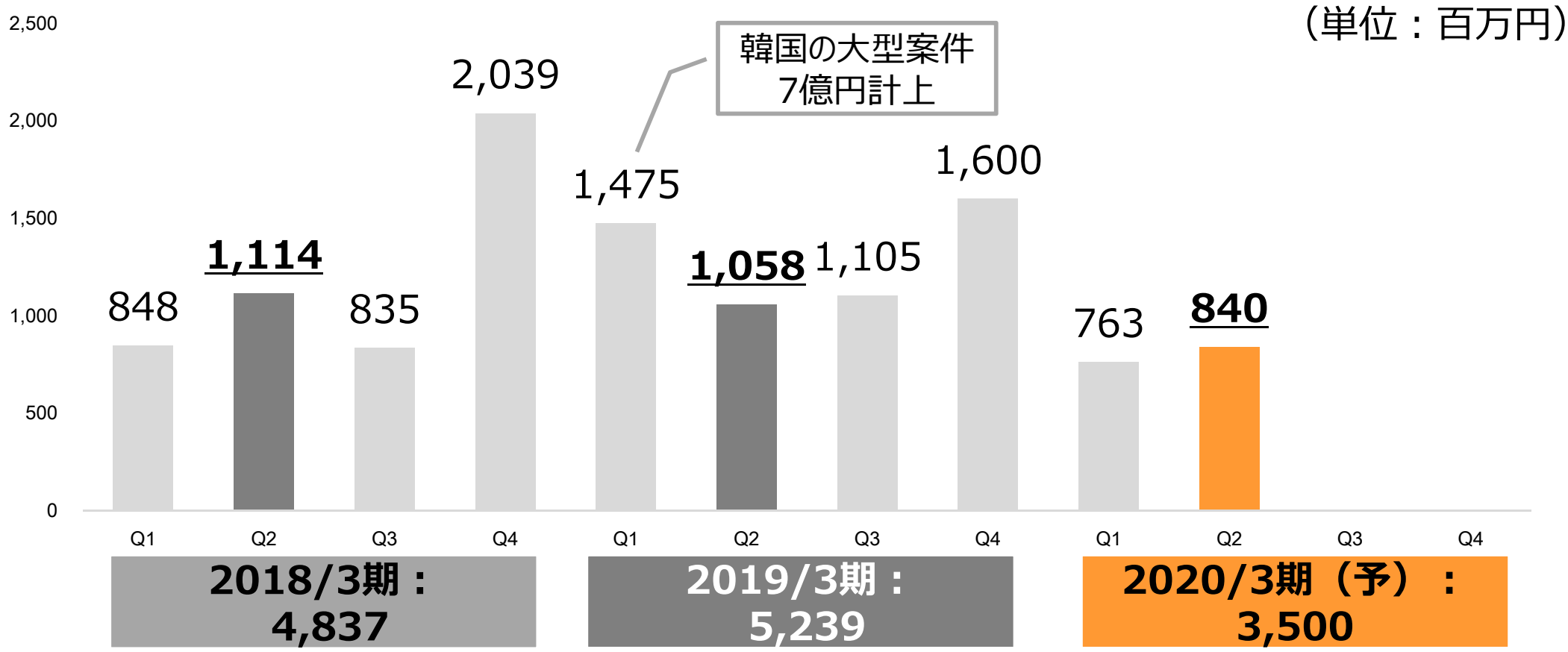
地域別売上高 (アジア)

※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

◇アジア事業の特徴：

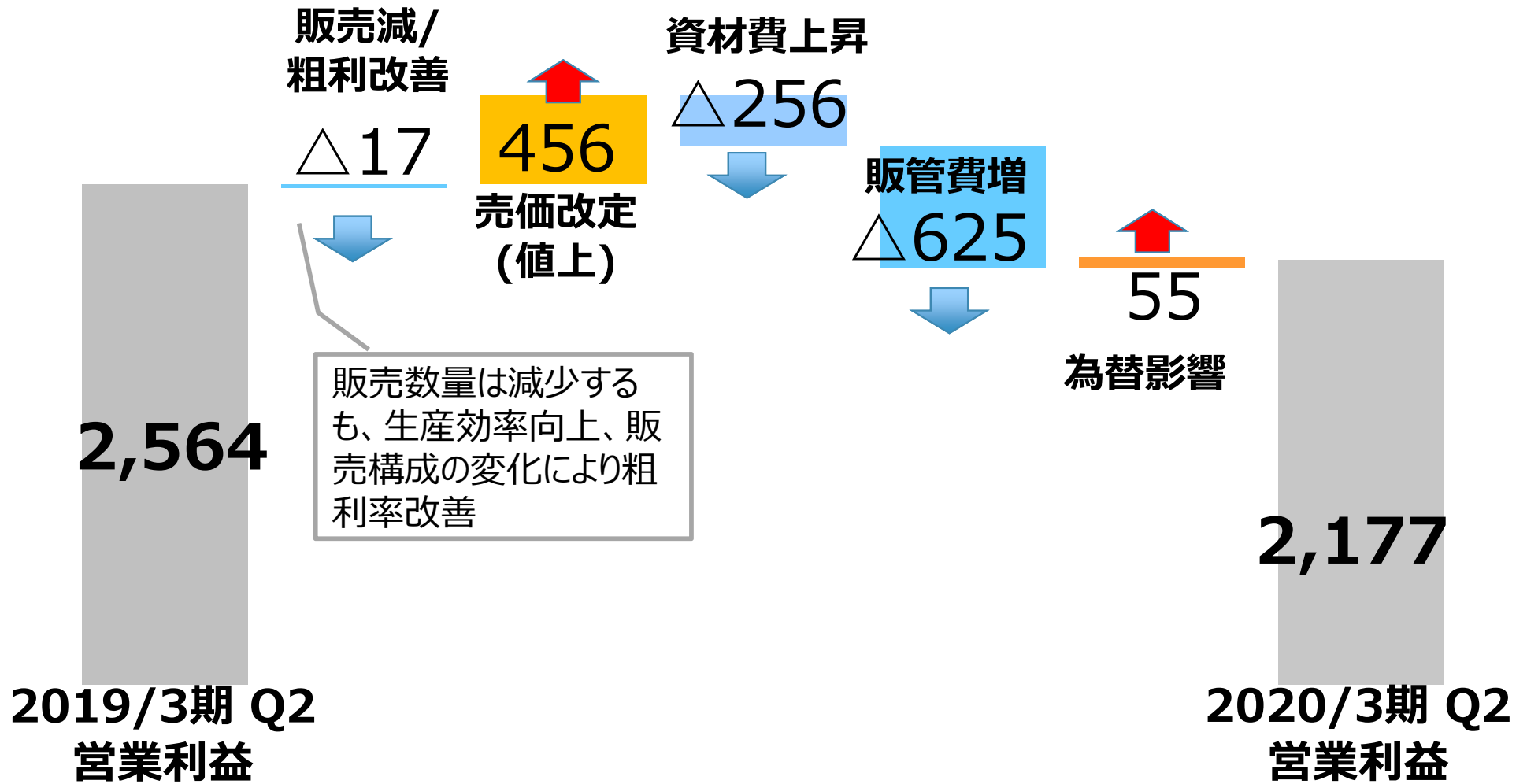
韓国、タイで、当地域の売上の70%を占める。事業構造を見直し収益性拡大を図る。

- 前年同期計上の韓国大型案件の影響により減収
- 東南アジアの需要は底堅く推移。韓国、台湾の景気減速は顕著
- 事業構造見直しにより、ホイスト販売は順調に拡大、クレーン事業の収益性も改善



営業利益の比較

(単位：百万円)



2020年3月期 第2四半期連結貸借対照表（前年同期比較）

単位：百万円	2019/3期 Q2	2020/3期 Q2	増減額
流動資産	39,300	39,147	△153
現金及び預金	8,878	8,194	△684
受取手形及び 売掛金	11,544	10,472	△1,072
たな卸資産	17,631	19,501	1,869
その他	1,245	980	△265
固定資産	23,092	22,539	△552
有形固定資産	11,112	11,789	676
無形固定資産	6,785	5,516	△1,268
投資その他の資産	5,194	5,233	39
資産合計	62,392	61,686	△705

単位：百万円	2019/3期 Q2	2020/3期 Q2	増減額
流動負債	19,271	19,641	369
支払手形及び 買掛金	6,820	6,818	△2
短期借入金	7,183	7,743	559
その他	5,266	5,079	△187
固定負債	17,809	15,427	△2,382
長期借入金	14,581	11,810	△2,770
その他	3,228	3,616	388
純資産合計	25,310	26,618	1,307
負債純資産合計	62,392	61,686	△705

* 1年内返済予定の長期借入金を含む

連結キャッシュ・フロー

単位：百万円	2019/3期 Q2	2020/3期 Q2	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	53	1,598	1,544
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,091	△2,241	△1,149
財務活動による キャッシュ・フロー	△798	396	1,194
現金および現金同等物 に係る換算差額	△27	△74	△46
現金および現金同等物 の増減額	△1,863	△320	1,543
現金および現金同等物 の期末残高	8,865	8,184	△681

<2020/3期Q2の主な内容>

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益：	1,763
減価償却費：	1,346
売上債権の減少：	1,821
たな卸資産の増加：	△2,052
法人税等の支払額：	△1,285

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出：	△719
無形固定資産の取得による支出：	△87
関係会社株式の取得による支出：	△1,287

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増額：	755
長期借入れによる収入：	2,400
長期借入金返済による支出：	△2,036

1

2020年3月期 第2四半期 決算報告

2

2020年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2015年3月期-2019年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業構造について

日 本



市場環境

- 政府の災害復旧、防災、減災対応、インフラ老朽化対策の推進
- 民間設備投資需要は底堅い推移を見込む

取り組み

- 活況なインフラ関連事業にスポットをあてた専任営業を設置
- 効率的なモノづくり実現のために生産ラインの改革に着手
- プロジェクト案件向け特殊品の取り込みに注力

米 州



市場環境

- 需要は幅広い産業での底堅い推移を見込む
- インフラ関連投資、エネルギー関連産業に期待

取り組み

- 納期短縮、質の高いサービスによる顧客満足度向上
- 製品品揃えを拡充し、顧客を取り込む
- チェーン生産能力増強への投資を実施

2020年3月期 見通し

中国



市場環境

- 商用車生産関連を中心とした設備投資が好調
- 環境、品質を重視する方向への社会志向の高まり

取り組み

- 好調業種の設備投資需要を捉え、販売拡大を図る
- 日本製プレミアムセグメント製品のさらなる需要掘り起こし
- 適正なコスト管理による安定した利益体質の確立

アジア



市場環境

- タイをはじめ、東南アジアにおける設備投資需要は堅調
- 韓国、台湾の投資需要は低迷が続く

取り組み

- クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化
- 事業効率化による利益改善策を継続

欧州



市場環境

- 幅広い産業での緩やかな需要拡大を見込む

取り組み

- 子会社との相乗効果拡大、さらなる市場の開拓

2020年3月期 業績予想修正（地域別）

- 米中貿易摩擦の長期化による先行き懸念、及び関連諸国の減速感
- 円高基調により想定為替レートを見直し

(単位：百万円)	2019/3期	2020/3期	修正額	修正理由
	(期初予想)	(修正予想)		
売上状況	62,800	60,000	△2,800	
日本	16,200	16,200	0	官民とも、底堅い需要は継続
米州	28,400	27,900	△500	現地需要堅調、為替による影響
中国	6,800	6,800	0	為替影響、需要好調
アジア	4,500	3,500	△1,000	韓国、台湾市場減速
欧州	4,400	4,000	△400	為替による影響
その他地域	2,500	1,600	△900	豪州、資源市場低迷

注 為替レート（期初計画→修正計画）：

USD 110.0→108.0円 CAD 85.0→80.0円 EUR 130.0→118.0円 RMB 17.0→15.0円

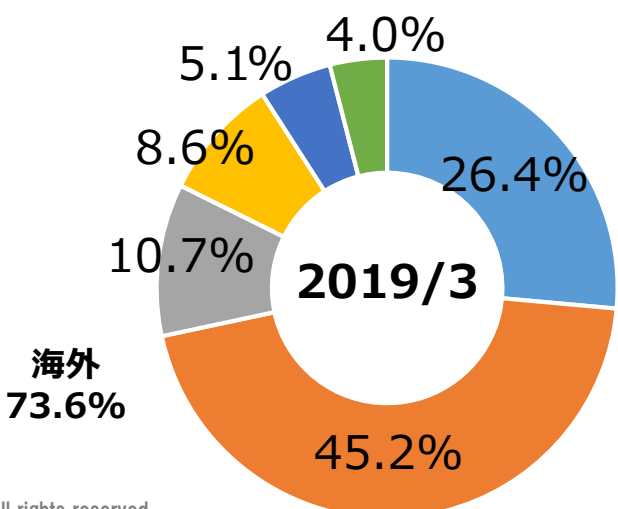
2020年3月期 業績予想 (地域別)

(単位：百万円)	2019/3期		2020/3期 (予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	61,238	100.0%	60,000	100.0%	△1,238	△2.0%
日本	16,162	26.4%	16,200	27.0%	38	0.2%
米州	27,663	45.2%	27,900	46.5%	237	0.9%
中国	6,539	10.7%	6,800	11.3%	261	4.0%
アジア	5,239	8.6%	3,500	5.8%	△1,739	△33.2%
欧州	3,204	5.1%	4,000	6.7%	796	24.8%
その他地域	2,430	4.0%	1,600	2.7%	△830	△34.2%

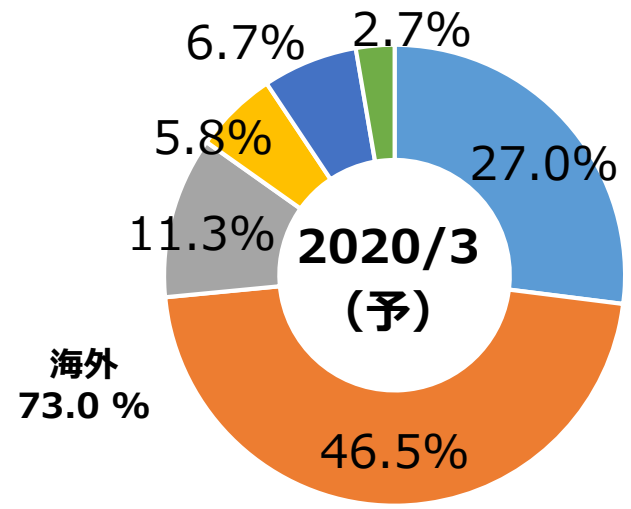
注 為替レート (2019/3期→2020/3期) :

USD 110.9→108.0円 CAD 84.6→80.0円 EUR 128.4→118.0円 RMB 16.7→15.0円

地域別
売上高構成比



- 日本
- 米州
- 中国
- アジア
- 欧州
- その他



2020年3月期 業績予想

(単位 百万円)	2019/3期	2020/3期 (予想)	前期比
売上高	61,238	60,000	△2.0%
営業利益 (営業利益率)	6,413 (10.5%)	6,000 (10.0%)	△6.4%
経常利益 (経常利益率)	5,748 (9.4%)	5,500 (9.2%)	△4.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	4,064 (6.6%)	3,700 (6.2%)	△9.0%
EBITDA =営業利益+償却費	9,201	9,100	
設備投資	1,416	4,000	

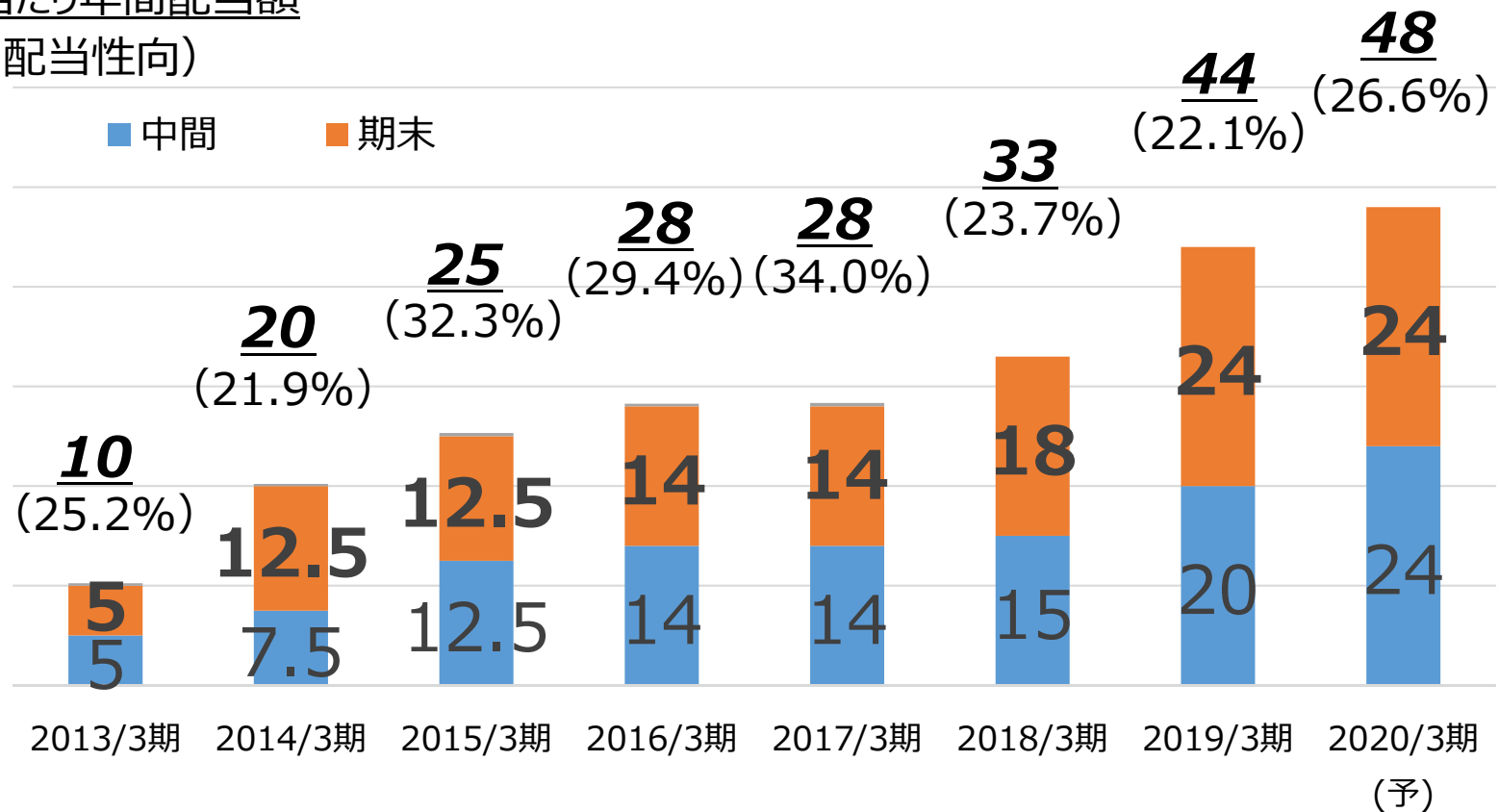
注 為替レート (2019/3期→2020/3期) :

USD 110.9→108.0円 CAD 84.6→80.0円 EUR 128.4→118.0円 RMB 16.7→15.0円

株主還元方針／配当予想

配当性向20%以上を目処に
年間配当額44円 から48円に増配予定

1株当たり年間配当額
(配当性向)



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2020年3月期 第2四半期 決算報告

2

2020年3月期 見通し

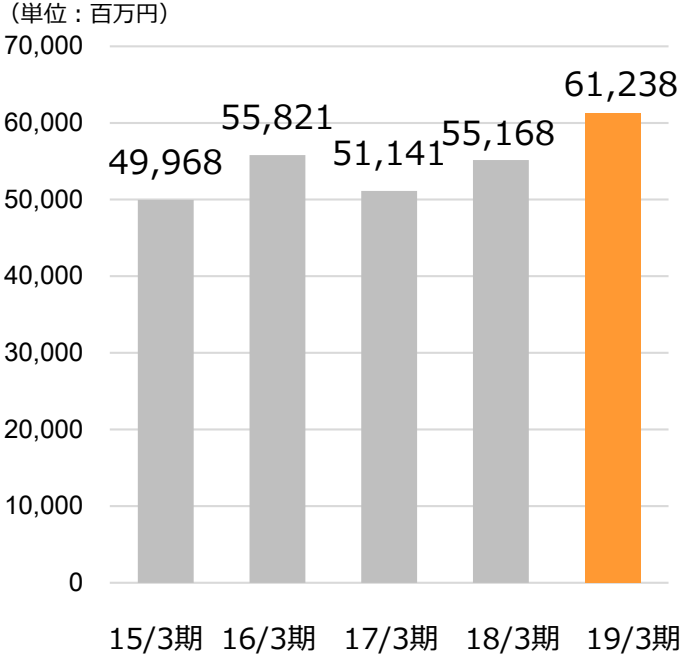
3

参考資料

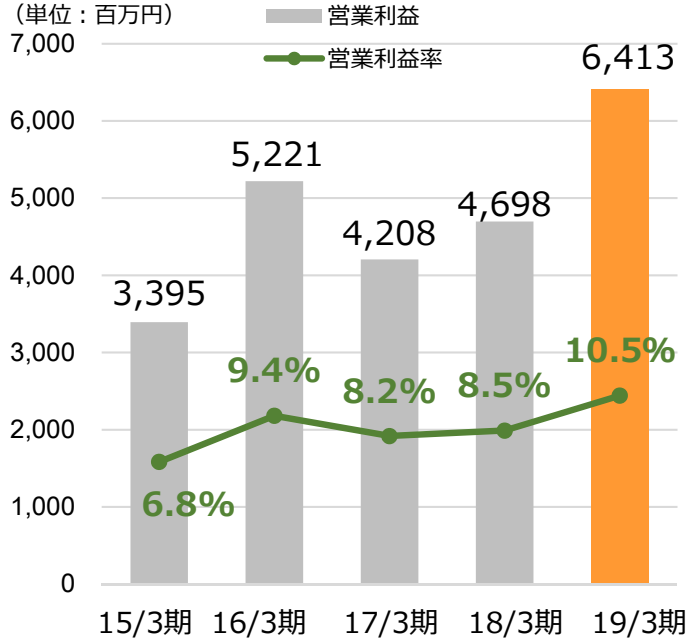
- 過去5期分の業績・財務情報（2015年3月期-2019年3月期）
- 中期経営計画（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業構造について

業績・財務情報

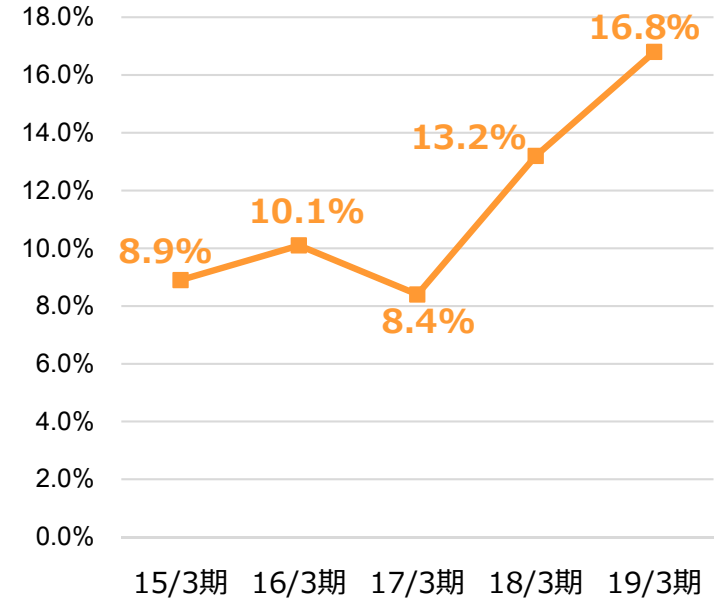
売上高



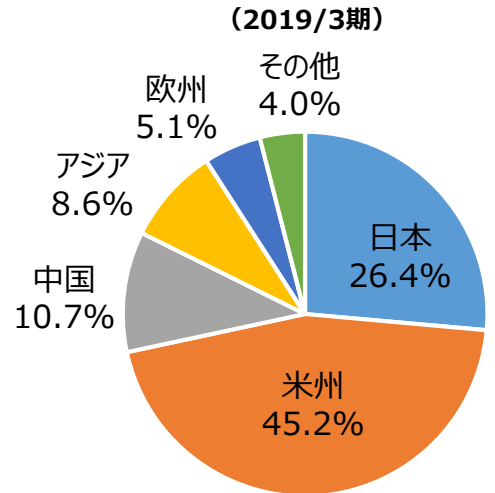
営業利益・営業利益率



ROE



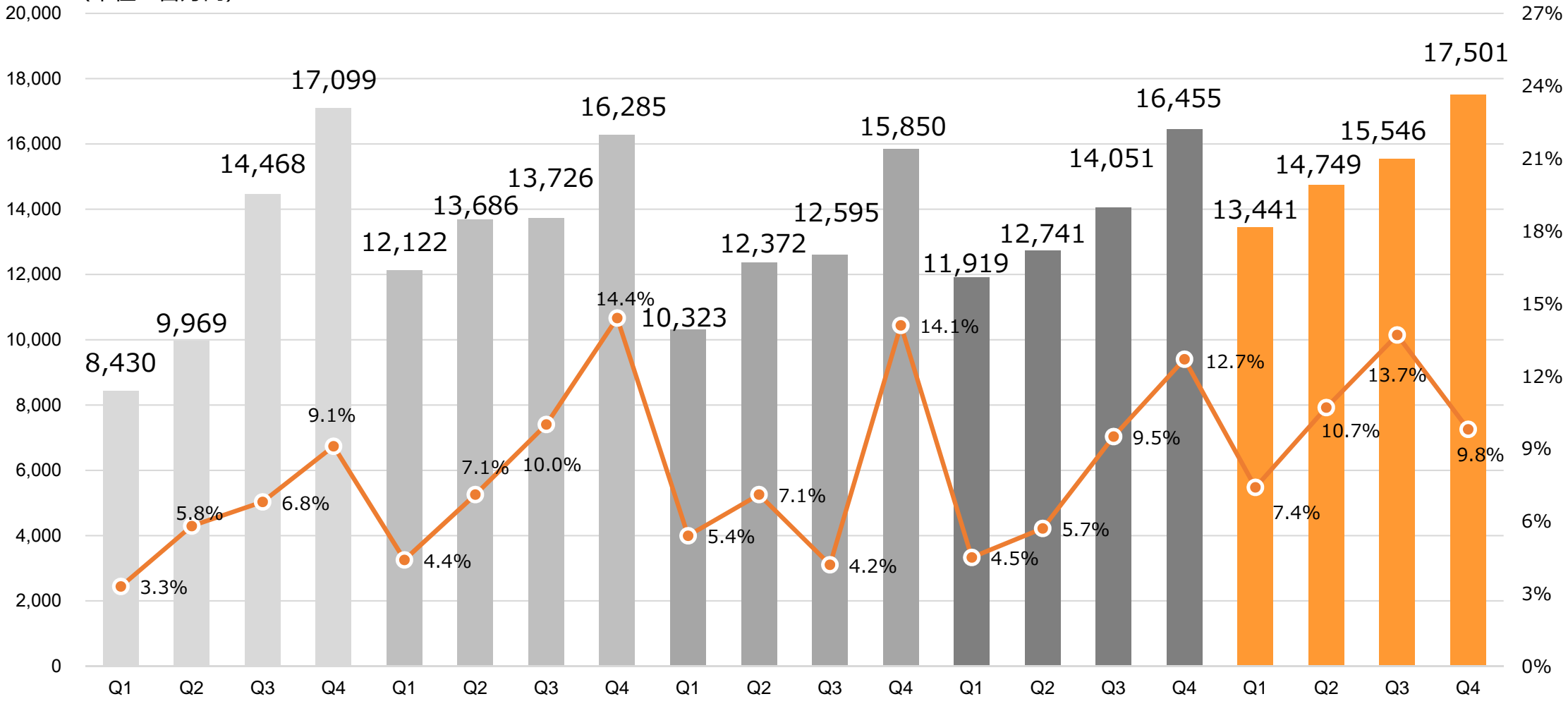
地域別売上高比率



	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
海外比率	76.6%	77.3%	74.3%	76.0%	73.6%
為替平均レート					
USD	109.9円	120.1円	108.4円	110.9円	110.9円
CAD	96.5円	91.8円	82.5円	86.5円	84.6円
EUR	138.8円	132.6円	118.8円	129.7円	128.4円
RMB	17.2円	19.2円	16.4円	16.6円	16.7円
設備投資額(百万円)	1,408	2,013	2,393	1,411	1,416
減価償却費(百万円)	1,311	1,814	1,792	2,116	2,470

売上高および営業利益率（四半期比較）

(単位：百万円)



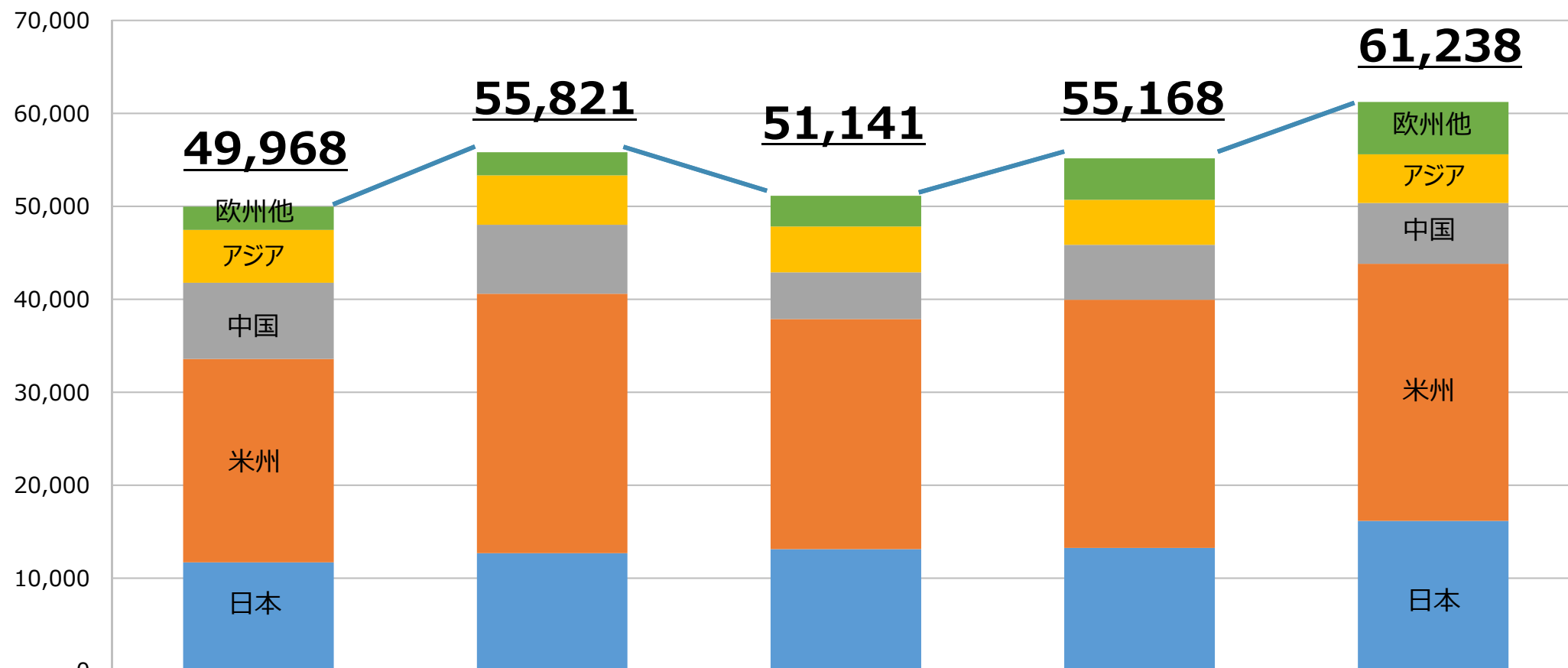
営業利益

280 575 987 1,553 538 966 1,371 2,345 561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717

2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
売上高 49,968	売上高 55,821	売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238
営業利益 3,395	営業利益 5,221	営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413

地域別売上高推移

(単位：百万円)



	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期
■ 欧州他	2,500	2,479	3,308	4,465	5,634
■ アジア	5,676	5,321	4,925	4,837	5,239
■ 中国	8,198	7,418	5,034	5,903	6,539
■ 米州	21,888	27,909	24,742	26,700	27,663
■ 日本	11,702	12,692	13,129	13,261	16,162

中期経営計画 (2017年3月期-2021年3月期)

基本方針

3つの基本方針による“KITO SPIRIT”を原動力とした推進

- 1) 「顧客満足の上昇」を第1の基本方針とする。
- 2) それを実現する「効率的で機能的な組織」を作る。
- 3) そして、組織を作る「人」への積極的な投資を行う。

経営目標

2021年3月期



3つの経営目標に向け 収益倍増を目指す

1 高収益体質への回帰

- ・生産設備リニューアル
- ・高収益事業への集中

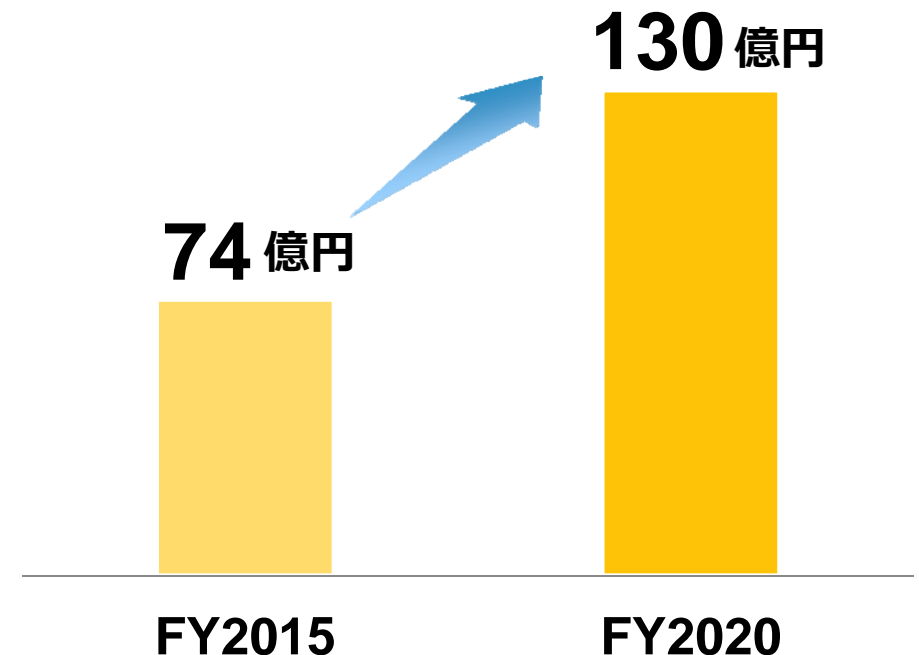
2 製品ポートフォリオ拡充による成長

- ・新製品の投入
- ・M & Aによる拡充
- ・既存製品の新市場への投入加速

3 真のグローバル企業への組織進化

- ・グローバル人材の採用と育成
- ・主要拠点における統一基幹システムの導入
- ・グループ内統一マーケティング・データベースの構築

Financial Target (EBITDA)



Phase1(基盤強化) から Phase2(本格的成長) へ

“Lifting Expectations”



事業構造

モノを持ち上げ、運び、固定する作業に不可欠な、 マテリアルハンドリング機器の リーディングカンパニー



経済の発展段階に応じた需要

特定の業界の動向に依存せず

成熟製品でありながら成長産業

■ クレーン

ホイストとの組合せで3次元の動きを実現



■ ホイスト（巻上機）

主力はクサリ(チェーン)式(電動・手動)
ワイヤロープ式もラインナップ(電動)
(中国においてはロープ式が主力)



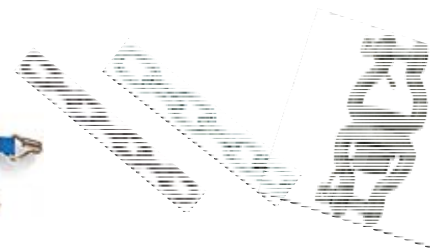
■ ビローフックデバイス （吊り具）

ホイストで荷物を吊り上げる際の
中間アタッチメント



■ 各種クサリ製品

運搬・移動・固定・牽引
船舶、農林業、タイヤチェーンなど



顧客ニーズの拡大



“KITO” = “信頼のブランド”

製品力	
耐久性	高性能
安全性	操作性

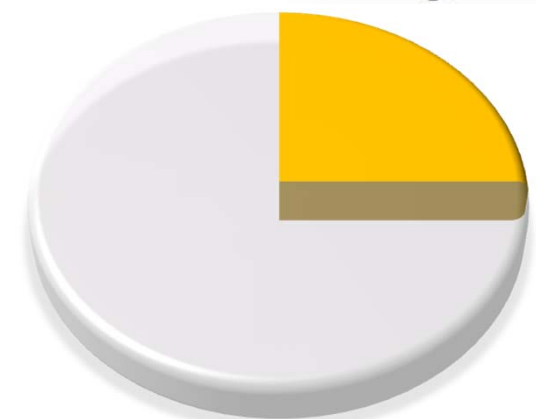
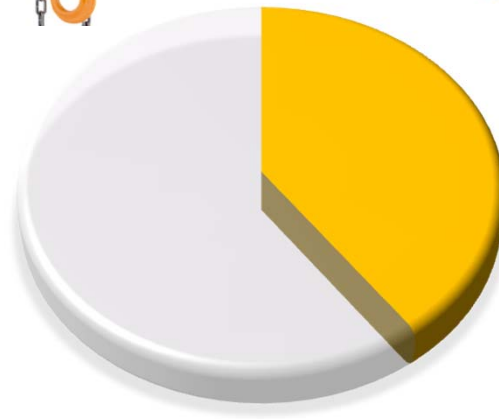
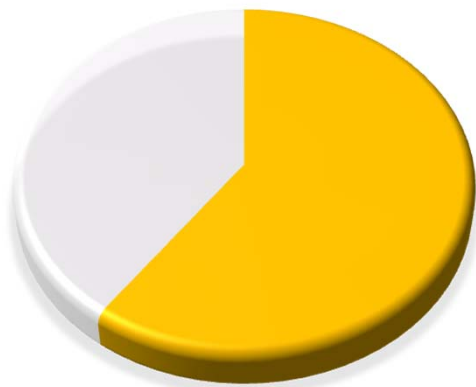
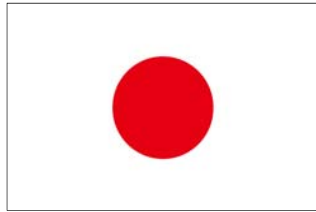
技術力
顧客の複雑なニーズへの高い技術対応力（エンジニアリング）

サービスネットワーク
広範なネットワークによる顧客満足度の高いサービスを実現



高付加価値製品・サービスの提供により差別化を実現
高品質市場での高い評価

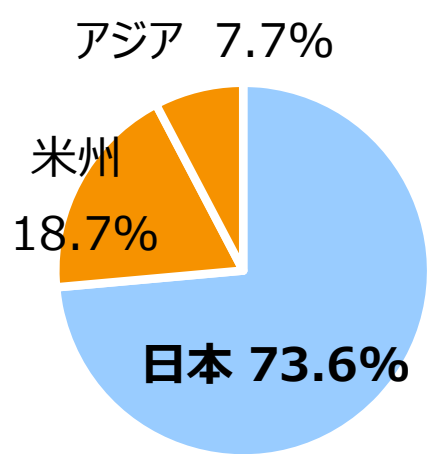
信頼に基づく高いシェア



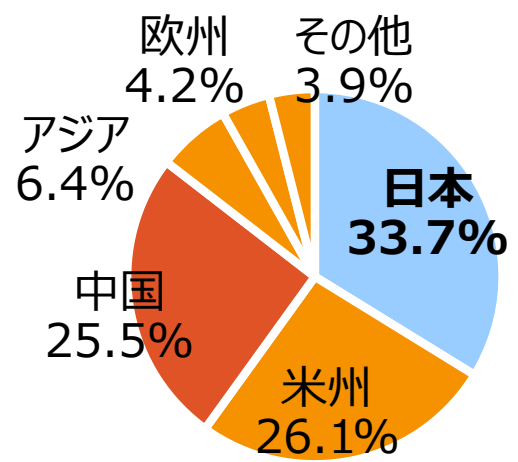
海外市場での成長

- 海外市場での成長により、地域分散の効いた事業ポートフォリオ構築
- 特定地域の需要動向に振られることなく、着実な成長を実現

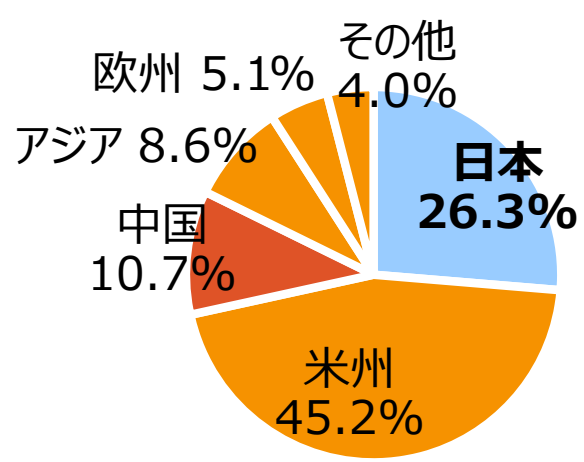
FY2000 売上高227億円
海外売上比率 26.4%



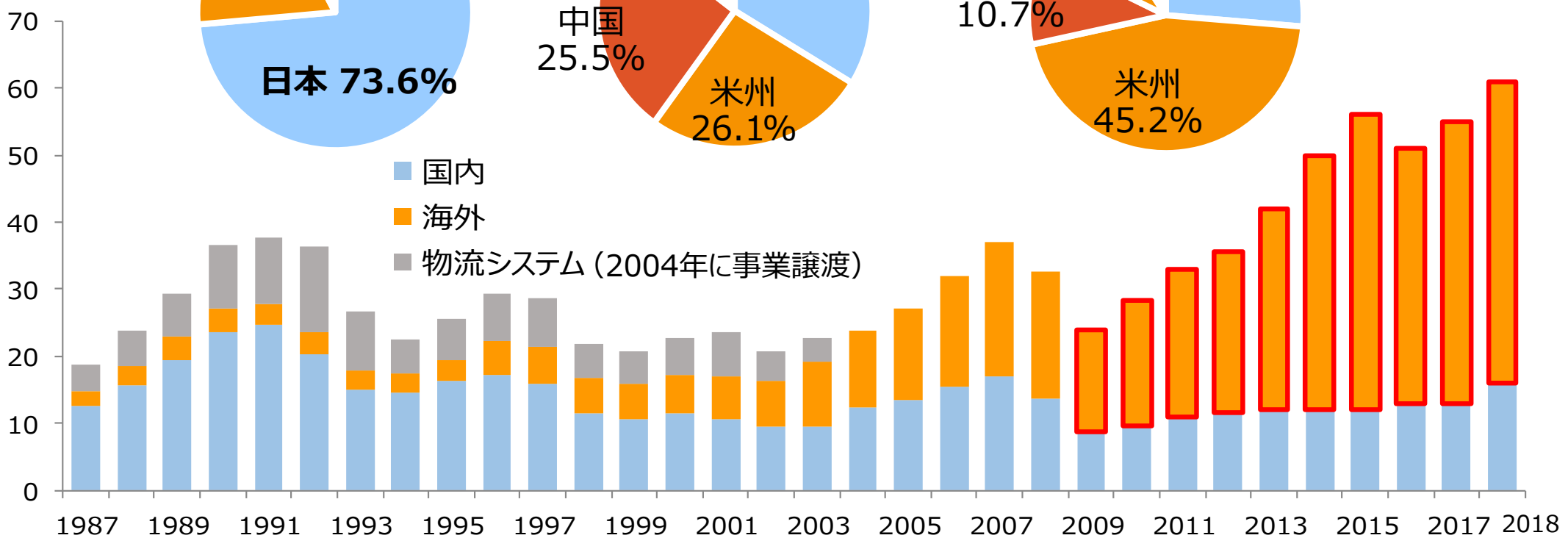
FY2010 売上高280億円
海外売上比率 66.3%



FY2018 売上高612億円
海外売上比率 73.6%



単位: 10億円



中国事業について

- 全体の設備投資需要が弱含むなかで、好調業種のニーズを捉えると共に、安全意識・品質意識の高まりにより、シェアが拡大
- 高い利益水準を安定的に確保、過去7期の営業利益率は平均10.8%
- 中国生産の90%以上を、中国国内市場向けに販売

	江陰キトー（1995年 設立）	上海キトー（2004年 設立）
製 品	ワイヤーロープホイストを中心に、 現地生産・現地販売	日本製チェーンホイスト製品の輸入販売
ターゲット	現地の製造業一般	日系を含む外資系企業、中国大手企業
FY2018 売上規模	約3.6億元	約0.7億元

市場動向に左右されにくい顧客基盤

- 民間設備投資、公共投資を問わず、広範な顧客基盤
- 特定の業界や、市場サイクルの影響を、受けにくい事業構造

工作機械受注統計（内需） キトー国内売上推移（12ヶ月移動平均）
（2015年4-6月期を「1」とした指数変動）

